

だてんし

墮天使のパスポート(Dirty Pretty Things)

2004(平成16)年7月14日鑑賞〈東宝試写室〉

★★★★



監督＝スティーヴン・フリアーズ／出演＝オドレイ・トトゥ／キウエテル・イジョフォー／セルジ・ロベス／ソフィー・オコネドー／ベネディクト・ウォン／ズラッコ・ブリッチ（東芝エンタテインメント配給／2002年イギリス映画／97分）

第3章

スクリーンの彼方に世界が見える

……ロンドンに不法滞在するトルコ人女性とナイジェリア人男性の2人を主人公として、パスポート取得をめぐる今日的問題点を赤裸々に描いた衝撃作。2人が勤務する、あるホテル内の一室で密かに行われていたのは何と臓器移植。この臓器移植とパスポート取得がどのように関わるのか？ 2004年アカデミー賞オリジナル脚本賞にノミネートされた、あっと驚くストーリーは斬新なもの。そして2人の俳優の熱演もお見事！

舞台はロンドン、主人公は2人の難民！

舞台はロンドン。主人公のトルコ人女性シェナイ（オドレイ・トトゥ）は、ロンドンにあるバルティック・ホテルに勤めるメイド。

そしてナイジェリア男性オクウェ（キウエテル・イジョフォー）は、このホテルの夜勤係のフロントをしながら、昼間はタクシーの運転手として働き、必死にお金を貯めている。

2人ともロンドンのまちの一角にはゴロゴロといる不法滞在の難民だ。

シェナイがトルコからイギリスにやってきたのは、母親のように、自由のない生き方をしたくないため。

そしてシェナイの夢はアメリカのニューヨークへ脱出することだが、それにはパスポートが必要。これに対して、オクウェがロンドンでこんな生活をしているのはなぜ……？

奇妙な共同生活

この2人は形式的には同居生活だが、実質的にはいわば完全入れ替え制による一室の2人使用のようなもの。

つまり、昼も夜も働いているオクウェが部屋のソファで眠ること自体がほとんどないため、部屋の中で2人が顔を合わせることもほとんどないという状態なのだ。

そのため目下、部屋の鍵も1個だけで、これを適宜交換しながら部屋を使っている状態。

オクウェが発見したのは、何と人間の心臓！

娼婦のジュリエット（ソフィー・オコネドー）が連れ込んだ客に続いて1人客室を出ていった後、その部屋の後片付けを言われたオクウェが部屋に入った。するとトイレが詰まっているのか、トイレの水が床に流れっぱなし。

そこでオクウェが腕まくりをして、水の詰まりを直そうとしたところ、何とそこには人間の心臓が……。

これを取りあげてビニール袋に入れたオクウェが、ホテルの支配人のファン（セルジ・ロペス）に報告し、警察へ通報するよう進言したが、ファンはなぜかこれを拒否したばかりか、オクウェに対して口封じのためのお金を……。

「これは何かある！」とオクウェは感じたが、不法滞在のオクウェが自ら警察に届け出することは到底できないことだった。

イギリスでのパスポート取得について

この映画のパンフレットには、外国人が合法的なイギリスパスポートを取得するについて、かなり詳しい解説がある。これは大いに勉強になるので、是非読んでいただきたい。

ここでその詳細は述べないが、とにかく厳格な条件を満たすことが必要で、外国人には容易に取得できるものではない。しかし、難民の場合でも、合法、非合法を問わず、14年間滞在した者には滞在許可証（パーマネント・ビザ）が与えら

れるため、パスポートの取得は可能。

そして、日本のパスポートと同様、イギリスを含む EU 加盟国のパスポートの信用度は非常に高く、多くの外国へビザなしで渡航することができる。したがって、シェナイがアメリカへ移住するためには、とにかくこのイギリスのパスポートを取得することが前提だ。

『墮天使のパスポート』とは？

この映画の原題は、『Dirty Pretty Things』だが、邦題は『墮天使のパスポート』。そして、この両者とも、この映画の本質をピタリと表現した見事なもの。この映画では、シェナイがアメリカへ移住するためのパスポートを取得できるかどうか最大のテーマだが、それに伴うシェナイとシェナイを支えるオクウェの愛の行方ももう1つのテーマ。

『墮天使のパスポート』とは、もちろん偽造パスポートのことだが、問題は、この貴重なイギリスのパスポートを取得するために払わなければならない犠牲は、どのようなものかということ。

この映画に限っては、そのカラクリをここで紹介することは到底できない相談。それは映画を観てのお楽しみに……。

オクウェの静かな熱演

主人公のオクウェを演ずるキウェテル・イジョフォーは、1976年生まれだから、まだ30歳にもなっていないが、どうも黒人は年齢がよくわからない。彼はこの映画で多くのセリフは語らないものの、実に存在感のある演技を披露し、隠れた過去の秘密をいくつももちながら、ほとんど眠らないで、ロンドンのまちでの生活を続けるナイジェリア難民のオクウェを見事に演じている。

また、後半でのインテリジェンスあふれる姿や、シェナイへの愛を断ち切って、子供への愛を語る姿も感動的！

1 通のパスポートの価値は？

トルコ人女性のシェナイは、マホメッドの教えに従っているため、処女性につ

いては極めて堅固な思想の持ち主。したがって、オクウェとの「共同生活」においても厳格そのもの。

そんなシェナイにとって、いくら警察の追及から守ってやると言われても、縫製工場で上司から要求された性的奉仕は、とても受け入れられるものではなかった。

ニューヨークへ行き自由に羽ばたくことを夢みるシェナイだが、現実はその逆で、事態は悪化するばかり。そんな中、遂にシェナイは、ホテルで行われている秘密の取引に参加することを決意した。

今の彼女にとっては、1通のパスポートを取得することは、生命を賭けるに値することだったのだ。そして、その結末は……？

存在感のある4人の脇役陣

脇役を固める4人の俳優は、それぞれのキャラクターをはっきりとうち出しているため、この映画は実に理解しやすい。

第1は、ホテルの支配人のファン（セルジ・ロペス）。彼は、自分が「勝ち組」にいることを当然の前提としたうえで、ある意味でイギリス流の経済合理性を徹底させた人物。だから、その意味では魅力的な男だ。

臓器移植にしても、みんながハッピーになるものと信じてやっているのだから、決して「悪人」とはいえない存在。だから、あっと驚く最後のストーリー展開をみると、少しかわいそうな気も……？

次に、ホテルのドアマンをつとめるイヴァン（ズラッコ・ブリッチ）は、現実派でかつ快樂派。

自己に厳格なオクウェに比べると、俗物っぽくみえるものの、むしろこれが標準仕様の人間。どちらかというと、私などもこのタイプ……？

面白いのが、娼婦のジュリエット。名前も可愛いし、シェナイと並んで座ったジュリエットが、「処女と娼婦の面白い取りあわせね」と語るシーンなどは、人間味タップリ。

もっとも、現実には娼婦として一晩に3人も4人も客をとっている姿をみれば、きっと幻滅……？

とりわけ光る中国人難民のグオイ！

とりわけ面白いキャラは、中国人難民のグオイ（ベネディクト・ウォン）。彼は、病院の死体処理係として霊安室で働いているが、極めてクールかつ合理的な思考法の人物。

オクウェは、実は極めて複雑な経歴をもつ博識な人物であるため、グオイはチェスの勝負ではこのオクウェに負けるものの、霊安室にかくまわれたシェナイと20分間話をすると、「お前がシェナイを愛していることがわかったよ」とオクウェに告げる、すごくいいヤツ。

またグオイは、医者であるオクウェに対して必要な薬を横流ししてやったり、霊安室をオクウェの寝泊まりの場所として提供してやったり。その上、霊安室に泊まるのをイヤがるシェナイの姿をみると、2人の逃走場所として従兄弟のアパートを紹介してやったり、何かとオクウェの世話をしてくれる、ちょっと中国人としては珍しい(?)キャラ！

これらの4人の脇役が、この映画を見事に引き締めている。

映画鑑賞の日に、「偽造英国旅券を密輸」の大ニュース

真っ昼間に事務所を抜け出して、この映画を試写室で鑑賞した後、夕刊を見たところ、何とそこには「偽造英国旅券を密輸」「中国人3人逮捕 背後に国際組織？」という記事（2004年7月14日付産経新聞夕刊）が……。

これは、容疑者らが不法入国に使ったものとは別に、本人の顔写真を貼った英国のパスポート2通を中国福建省から国際郵便で取り寄せようとして、大阪税関の検査で発覚した。そして、大阪府警によると、中国人の不法入国事件で英国の偽造旅券が見つかるのは異例とのこと。

こんなニュースを見ると、この映画で描かれたイギリスから外国へ出国するための偽造パスポートが、大量に出回る日も意外に近いのかも……。

2004(平成16)年7月14日記